

1/5 田中

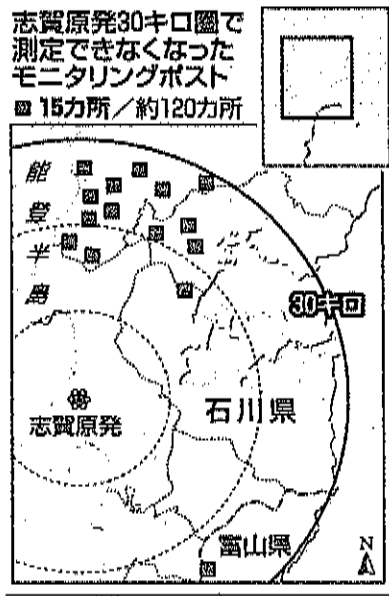
# 放射線量15カ所測定不能

## 志賀原発 復旧見通し立たず

能登半島地震で、北陸電力志賀原発（石川県志賀町）周辺の空間放射線量を測定するモニタリングポストが、15カ所で測定できなくなっている。地震による道路寸断などで現地を確認できず、復旧の見通しは立

っていない。原発事故時に住民避難の判断根拠となる実測値を迅速に得られない状況で、原子力災害への備えの難しさを露呈した。

原子力規制委員会事務局の原子力規制庁によると、原発の約30\* 圏内に約12



0カ所あるモニタリングポストのうち、輪島市や穴水町など原発の北側20〜30\* 付近で地震発生以降、測定できていない。担当者らは「壊れているのか、土砂などで埋まっているのかなど」の状況は分からない」と話

す。

国の原子力災害対策指針では、原発事故が起きた際、モニタリングポストの実測値で住民の屋内退避や避難開始などを決めると規定する。測定できない場合、代わりに自動車やヘリコプターを使って測定するが、道路の寸断や事故時の高い放射線量下でヘリが近

づけるのかなど課題が残る。

2011年3月の東京電力福島第1原発事故では、福島県が設置していた24台のモニタリングポストのうち、放射線量の把握が難航。結果的に、多くの避難者が放射線量が高い地域に逃げ被ばくを強いられた。

志賀原発は運転停止中で、地震による事故は起きなかった。ただ、測定できないモニタリングポストの早期復旧は難しい状況。代替装置として、可搬型の測定器を置けたのは、原発から南東に20\* 以上離れた富山県水見市の1カ所だけにとまっている。原子力規制庁は、航空機による測定の準備は整えている。

石川県原子力安全対策室の担当者は「道路が寸断され近づけず、県としては代替手段が取れない」と話した。